

## 脳神経研究奨励賞 (新見賞)

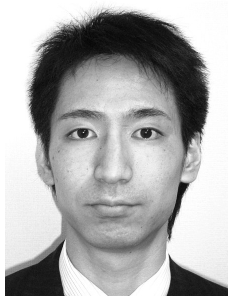


表 芳夫

## 略 歴

昭和55年7月3日生

平成18年4月1日 浦添総合病院 初期臨床研修医

平成20年4月1日 岡山大学病院 神経内科医員

平成21年4月1日 脳神経センター大田記念病院 脳神経内科

平成22年4月1日 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程入学  
岡山大学病院神経内科医員

平成26年3月25日 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了

平成26年4月1日 静岡てんかん・神経医療センター 神経内科・  
てんかん科  
現在に至る

## 研究論文内容要旨

世界的な高齢化の進行と高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満などのメタボリック症候群の罹患率の高まりとともに脳梗塞発症リスクが増加してきている。Cilostazol for prevention of secondary stroke (CSPS2) 試験においてシロスタゾールは脳卒中発症予防効果に優れていることが示され、一般臨床で広く使用されている。シロスタゾールは基礎研究において抗酸化作用や血管拡張作用などの多面的な効果が報告されているが脳梗塞発症抑制に直結するメカニズムに関しては不明な点も多い。今回、自然発症脳梗塞モデルでありかつ脳血管性認知症モデルとして知られる脳卒中易発症高血圧ラット (SHR-SP) を用い、シロスタゾールは血圧と関係なく自然発症脳梗塞の抑制効果のみならず、運動機能、認知機能が保たれることが明らかにされた。さらにその機序として、虚血巣周囲における抗酸化作用が脳梗塞進展を予防している可能性が示唆された。また、海馬におけるインスリン様成長因子1受容体 (IGF-1R) の発現亢進により認知機能が保たれていると考えられた。以上の結果からシロスタゾールの脳梗塞予防ならびに認知機能保持に寄与するメカニズムの一端が明らかにされた。今回明らかになったメカニズムに基づく新規治療薬開発が望まれる。